

# Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



PEM027-P12

会場:コンベンションホール

時間:5月25日 10:30-13:00

## Pi2 開始の 10 分間、極側の端で観測される Pi2 サージ Auroral surge at poleward edge in the first 10 min intervals of Pi2 onset

坂 翁介<sup>1\*</sup>, 林 幹治<sup>2</sup>  
Osuke Saka<sup>1\*</sup>, Kanji Hayashi<sup>2</sup>

<sup>1</sup> オフィス ジオフィジク, <sup>2</sup> 東京大学  
<sup>1</sup>Office Geophysik, <sup>2</sup>University of Tokyo

地上あるいは衛星高度で観測される Pi2 は、東西へ分岐した高速流 (分岐流) の繰り返しによって説明される (Saka et al., JASTP, 2010)。この分岐流に関連するとみられるオーロラサージが極側の端で見つかっている (2010 年 SGPSS 沖縄)。

本講演では、1986 年 1 月 24 日と 1 月 27 日にカナダマニトバ州で観測されたオーロラを使い、極側の端に現れるサージには東向きと西向きがあり静止軌道ではそれぞれ CCW、CW の偏波特性が観測される事と、このサージの赤道側ではサージの流れの影響を受けたと考えられる渦状のオーロラが生まれる事を発表する。

さらに結論として、サージは静止衛星あるいは地上 Pi2 に同期して繰り返す分岐流バーストによる Alfvén 的オーロラである事を示す。

キーワード: Pi2 脈動, サブストーム, Alfvén 的オーロラ, 全天イメージ, 静止軌道

Keywords: Pi2 pulsation, substorm, Alfvénic aurora, all-sky image, geosynchronous altitudes